

令和7年度 横堤中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 横堤中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	74	58	52	7.6	8.9	学校	497
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	70	71.7	60.3	62.3	51.3	59.9	4.7	5.3	9.6	9.1	5.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	88	66.1	53.6	61.5	47.1	56.4	7.8	4.5	10.7	4.2	7.9
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	78	65.6	62.9	56.7	51.8	66.3	9.3	2.6	8.3	3.9	5.3
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.4	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	70	128.5	110.8	155.5	98.5
10月15日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	100										
2年 男子	学校	30.04	25.81	37.16	52.62	-	433.34	8.31	187.67	18.09	38.64
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	26.20	22.67	45.14	49.83	-	303.62	9.13	166.64	13.00	50.68
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 横堤中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

- ・調査した教科のうち、国語、数学については平均正答率が**全国平均を上回っている**。
教科平均正答率(学校/対大阪市比/対全国比)
国語(58/1.12/1.07) 数学(52/1.13/1.08) 理科(497/1.02/0.99)※理科は平均IRTスコア
- ・教科によっては平均無解答率が全国および、大阪府平均を上回っていることから、**問題を最後まで取り組んでいない状況**が伺える。

(国語)

- ・「話すこと」「書くこと」の領域において、平均正答率は全国平均を超えている。
- ・「読むこと」の領域においては、平均正答率が全国・大阪府平均を下回っている。→「**読解力**」に課題がみられる。

(数学)

- ・「図形」「関数」の領域において、平均正答率は全国平均を超えている。
- ・「データの活用」の領域においては、平均正答率が全国平均を下回っている。

(理科)

- ・平均正答率は大阪府を超えているが、**全国平均からは0.01ポイント下回っている**。(対全国比 0.99)
- ・IRTバンドからも分かるように、上位層の多いものの下位層も多く、**学力の2極化**が見られる。

(課題)

- ・生徒質問紙の「**読書が好きですか**」において、肯定的な回答が全国平均から**9.6ポイント(大阪府平均から6.0ポイント)**下回っていることから、**今後は読書活動**にも力を入れ、読解力向上に取り組んでいく必要がある。

○中学生チャレンジテスト

(3年生)

- ・調査した**すべての教科の平均点が大阪府平均を上回っている**。
教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)
国語(71.7/1.11/1.12) 社会(60.3/1.17/1.18) 数学(62.3/1.15/1.15) 理科(51.3/1.07/1.07)
- ・英語(59.9/1.10/1.13)
- ・国語科の「**読むこと**」において、全国学力・学習状況調査では大阪市平均を下回っていたが、今回は**大阪市平均を上回っている**。
- ・数学科において、「**関数**」「**データの活用**」は大きく上回っている。

(2年生)

- ・調査した**すべての教科の平均点が大阪府平均を上回っている**。
教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)
国語(66.1/1.01/1.03) 社会(53.6/1.19/1.21) 数学(61.5/1.10/1.12) 理科(47.1/0.98/1.01)
- ・英語(56.4/1.08/1.09)
- ・国語科の「**話すこと・聞くこと**」、理科の「**地球**」の領域については、**大阪府平均を下回っている**。
- ・生徒アンケートの「**あなたの学級は、間違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。**」において、肯定的な回答が大阪府を**2.0ポイント上回っている**。

(1年生)(チャレンジテストplusを含む)

- ・**理科を除く**教科の平均点が大阪府平均(大阪市平均)を上回っている。
教科平均点(学校/対大阪市比/対大阪府比)
国語(65.6/1.04/1.04) 社会(62.9/1.08 / —) 数学(56.7/0.98/1.00) 理科(51.8/0.82 / —)
- ・英語(66.3/1.00/1.02)
- ・領域内容別でみると、**国語科はすべての領域で大阪府平均を上回っているが、数学科の「数と式」、英語科の「読むこと」においては、大阪府平均を下回った**。
- ・理科においては、「**身近な生物の観察**」「**植物の分類**」は大阪市平均を上回っているが、「**光・音の性質**」については**大阪市平均を大きく下回っている**。
- ・生徒アンケートから、**家庭でのスマートフォン・タブレットの使用率が高い(1日4時間以上 40.3%)**

(課題)

- ・一部科目において、得点分布から**成績の二極化**が読み取れるため、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・授業において、生徒が**PC・タブレットを使って意見交換をする機会が少ない**ため、改善が必要である。

○大阪市英語力調査(GTEC)

- ・**各技能の平均スコアはすべて大阪市平均を上回った**。特に「**読むこと【リーディング】**」においては、大阪市平均よりも**11.1ポイント高い**。
- ・本校の「CEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合」は **61.4%**(大阪市平均 60.3%)であった。

(課題)

- ・CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する3年生の割合は**昨年度よりも3.7ポイント低くなっている**。指導方法の工夫改善を進めたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

- ・男子の「**握力**」「**反復横とび**」(2種目)は**全国平均を超えている**が、その他の種目はすべて全国・大阪市平均を下回った。
- ・女子は**6種目で全国平均を超えて**おり、「**長座体前屈**」「**50m走**」が全国・大阪市平均を下回った。

(課題)

- ・**男女とも「走」の種目に課題**がある。

【今後に向けて】

- ・各教科において、**どのような力を身につけさせたいかという明確な目標**のもと、新学習指導要領に則し、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向け、**学びの方向性を見据えた授業づくり**を進めていく。
- ・授業において、**生徒がPC・タブレットを活用する機会が少ない**ため、教職員研修を進めながら指導方法の改善に努めていく。
- ・全学年の国語、数学、英語で進めている習熟度別少人数授業や他教科でも実践している協働学習、個別学習、補充学習など個に応じたきめ細かい指導を進めていく。また、学校元気アップ推進事業の活用を進め、放課後学習会や長期休業中の学習会の実施、定期テスト前の自主学習会など、**生徒が自主的に学習に取り組む姿勢を育成するための環境整備**を更にすすめる。
- ・学校・地域・家庭の連携を図り、**生徒が運動やスポーツに関わる機会の提供**に努める。
- ・**家庭でのスマートフォン・タブレットの使い方**について、家庭と連携を図っていく必要がある。